

# 4案内標示等

## ■基本的な考え方■

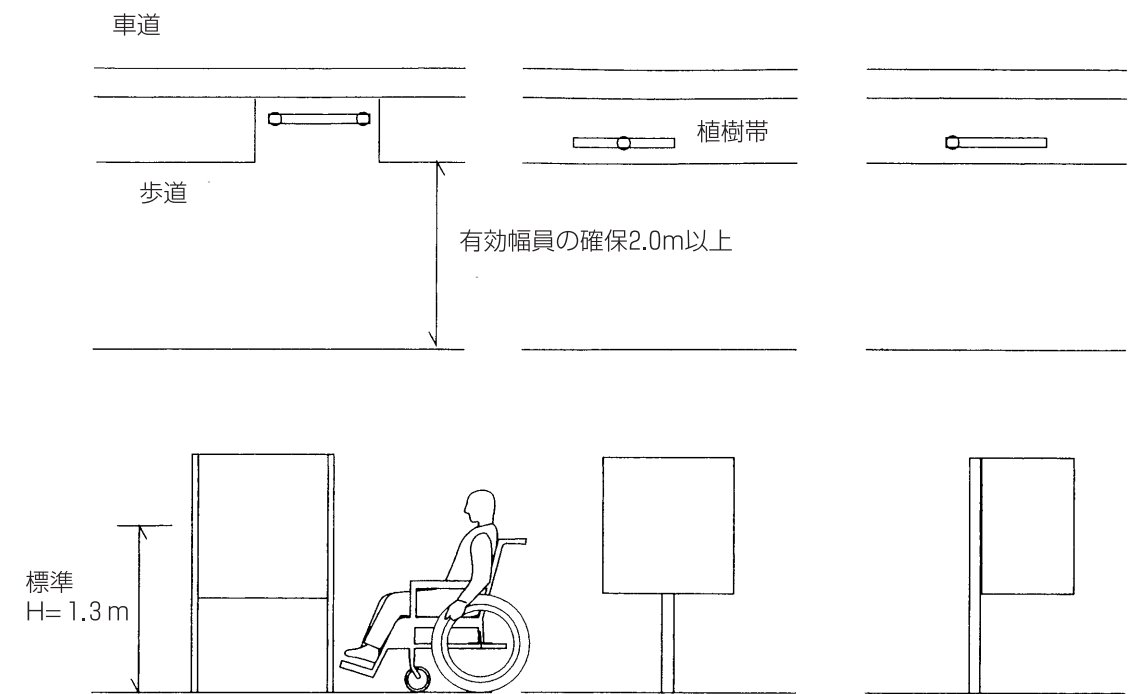
高齢者や身体障害者等歩行者の誰もが目的地まで安全かつ円滑に到達できるように、公共施設の管理者は連携をとりながら必要な情報を総合的・計画的に配置する。

整備基準
<b>4 案内標示等</b> 1 必要に応じて、公共施設の位置を示す案内標示等を整備すること。 2 案内標示等は、身体障害者等が確実に目的の場所に到達できるよう設置箇所、表記方法等に配慮したものとする。

整備基準の解説	
項 目	解 説
1公共施設の案内標示等	○公共施設の案内標示等の設置にあたっては、道路管理者と設置位置や設置方法等について協議のうえ、その施設管理者が自ら設置するものとする。
2標示方法	○大きめでわかりやすい文字や記号で表示するものとし、記号による表示には、必要に応じて、文字を併記する。 ○文字については、ひらがなやローマ字等を必要に応じて、併記する。

配慮事項	
項 目	解 説
音声誘導装置	○視覚障害者の利用が多く、音声による誘導が可能な箇所には、音声誘導を設置する。

有効幅員が確保でき、歩行のさまたげにならない場合の例



有効幅員が確保できない場合の例

